



マーケット・レポート

情報提供資料
2026年10月13日

金(ゴールド)価格の直近動向と今後の見通しについて

引き続き米利上げ観測が重石となるも、底堅い展開を見込む

- 金価格は4100ドル近辺で推移、米国の利上げ観測に伴う債券利回り上昇を受けて上値が重い
- 米ドルの代替資産として、中央銀行の中長期的な金への投資需要が価格を下支えすると予想

【足元の金価格の動向】

- NY金スポット価格は、今年8月に約3ヵ月半ぶりの高値となる4600ドル台(1トロイオンス、以下単位省略)まで上昇しました。反発の要因として、米国の財政悪化リスクに起因した米ドル離れ進行などが考えられます。しかし、9月以降は下落基調へと転じ、足元では4100ドル近辺で推移しています。金価格下落の要因としては、FRB*1による利上げ観測の高まりから政策金利見通しが反映されやすい米国2年国債利回りが上昇し、金利が付かない金に対する積極的な買いが手控えられていることが挙げられます(図表1上段)。
- 利上げ観測が高まった背景には、1)8月開催のジャクソンホール会議でウォーシュFRB議長が物価目標達成に向けた強い決意を示したこと、2)原油価格上昇に伴いインフレ上振れ懸念が高まったこと、3)9月開催のFOMC*2で先行きの政策金利見通しが引き上げられたこと、などが考えられます。

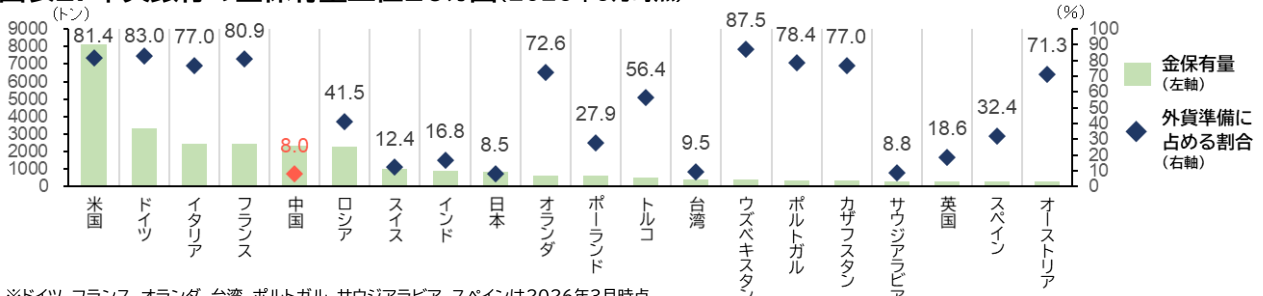
【今後の見通しについて】

- AI(人工知能)関連投資を支えに米国経済が堅調に拡大する中でインフレは高止まりを続けているため、FRBの利上げ観測は後退しにくく、金価格の上値を抑える要因となります。一方、金価格は底堅い推移が見込まれ、中長期的に上昇基調が続けると予想します。
- ロシアへの経済制裁以降、新興国の中央銀行は米ドル資産への依存を減らし、金の保有を増やしています。代表格である中国人民銀行は、下落局面で金の購入量を増やしており、23ヵ月連続で買い増しています(図表1下段)。また、外貨準備全体に占める金の割合をみると、中国は8%程度と金保有量上位20カ国の中で最低で、金の保有を増やす余地は大きいと考えます(図表2)。そのため、金の継続的な購入が期待できる中央銀行の存在が価格を下支えすることで、足元の下落基調は長期化せず底堅い展開を予想します。

図表1. 金価格と米国2年国債利回りと中国人民銀行の金買い越し量



図表2. 中央銀行の金保有量上位20カ国(2026年6月時点)



※ドイツ、フランス、オランダ、台湾、ポルトガル、サウジアラビア、スペインは2026年3月時点。

【出所】ブルームバーグ、WGC(ワールド・ゴールド・カウンシル)の公表データ等に基づき、リそなアセットマネジメントが作成

※当資料の使用に際し、最終ページの<当資料に関するご留意事項>を必ずご覧ください。

作成:運用戦略部 投資戦略グループ シニア・ストラテジスト 有本 誠



リそなアセットマネジメント

〈補足〉

- *1 FRB … 連邦準備制度理事会 (Federal Reserve Board)。米国の中央銀行の意思決定機関にあたる。
- *2 FOMC … 連邦公開市場委員会 (Federal Open Market Committee)。米国の金融政策決定会合にあたる。

〈当資料に関するご留意事項〉

■当資料は、りそなアセットマネジメント株式会社が投資環境についてお伝えすることを目的として作成したものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。■当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。■当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、りそなアセットマネジメントが設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。なお、掲載されている見解は本資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は、値動きのある資産を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元本を割り込むことがあります。■投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体としてお渡する「目論見書補完書面」を必ずご確認のうえご自身でご判断ください。